



ひろげよう！まちづくりの輪 ～手と手をつなぐ大家族リレー～



市民予算枠事業（地域内分権推進型）交付金を活用して、各地域のまちづくりに取り組んでいる団体の皆さんを紹介します。

「清水町
町内会」

から

パト
ン
ダ
ン
キ！

高浜小学校 PTA

◆市民予算枠事業の取組みを始めたきっかけは？

他の小学校区で行われているような親子交流事業を高小 PTA でもやりたいということで5年前から事業を行っていました。でも、どうせなら学校を拠点にもっと幅広い世代がつながりあう機会をつくり、地域の方たちとの交流をとおして、子どもたちに自立性や責任感を身につけてもらえるようにしてはどうかと考え、3年前から市民予算枠事業の交付金を活用し、3世代交流事業として、8月に「高小デー」、1月に「高小餅つき大会」を行っています。

◆2つの行事について具体的に教えてください。

今年の「高小デー」では、初めてドミノ倒しを行ったほか、着衣水泳、バケツリレーなどの防災体験、流しそうめん、校内ウォークラリー、5年生児童による火の舞などを行いました。ドミノ倒しでは、ドミノが体育館一面に並べられた風景は圧巻でした。全部がうまく倒れたわけではないですが、みんなでやり遂げた達成感は、子どもたちにいい影響を与えたようです。「来年はこうしよう。またやりたい。」と次につながる企画でした。また、今年の「高小餅つき大会」は、炊き出し体験、木やペットボトルを使ったものづくりなども行います。楽しみながら防災体験をかね、意義のあるイベントになるようにしています。

◆活動でやりがいを感じる時や工夫していることは？

子どもたちの楽しんでいるようすを見たり、終わったあとに、準備や設営に関わった方から「大変だったけど、やってよかったね。」という言葉があると、やりがいを感じますね。みんなが何かをやる過程を大事にしたいので、参加者がお客さんにならないよう、親子で体を動かして参加するものを増やし、大人も子どもも参加者が手伝えることは手伝ってもらえるようにしています。今年は、子どもたちに「たません」づくりを手伝ってもらいました。

こういう活動により、ふだん家庭では見られない親の姿が見られたり、学校の先生とのコミュニケーションが図れたり、「親と子」、「親と親」、「親子と学校」、そして「学校と地域」へと絆が広がる機会になればと思います。



▲食べる側だけでなく、つくる側も楽しい！「たません」なら子どもでもつくれます。



▲ドキドキハラハラ！途中で倒さないよう真剣にドミノを並べています。



▲昨年度は、災害グッズづくりとして、ごみ袋でカッパ、新聞紙でスリッパなどを作りました。

市民予算枠事業って何？

⑧「地域内分権推進型」提案を考える うえで大切なことは？

「何のために行う事業なのか」目的を明確にし、成果を振り返り、次へとつなげよう。



一部の人の利益になることではなく、地域全体のため、みんなのためになることを実施しよう。



たくさんの方が参加し、まちづくりに関わる人を少しでも増やしていくために、広く市民にお知らせしよう。



なんでも交付金ありきということではなく、自主財源を確保する努力をしよう。



問合せ先 団総合政策グループ ☎ 52-1111 (内線 339)